

成人看護学実習

【実習目的】

成人期にある対象の特徴を理解し、健康上の課題を解決するための基礎的知識・技術・態度を修得する。

【実習目標】

- 1 成人期にある対象を総合的に理解することができる。
- 2 科学的思考のプロセスを踏まえて、看護を展開できる能力を身につける。
- 3 様々な健康段階にある対象の安全・安楽・自立に留意し、QOLの維持・向上のための援助が実施できる。
- 4 保健医療チームの一員として連携の必要性を理解すると共に責任ある行動がとれる。
- 5 成人期にある対象との関わりを通して、看護に対する考えを深めることができる。

【構成および計画】

授業科目	実習内容	時間	単位(合計時間)
成人看護学実習Ⅰ	セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護	80	2 (90)
	実践活動外学習	10	
成人看護学実習Ⅱ	健康の危機状況にある人の看護	80	2 (90)
	実践活動外学習	10	
成人看護学実習Ⅲ	緩和ケアを必要とする人の看護	80	2 (90)
	実践活動外学習	10	
合 計		270	6 (270)

<実践活動外学習の内訳：成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通>

項 目	目 的	内 容	時間
フローアオリエンテーション	実習を円滑に行うために、実習の概要を理解し、実習施設や対象の情報を得て、イメージ化を図る	実習の目的・目標、時間数、評価等、病棟の概要、特徴、記録・報告、対象の紹介、シミュレーション演習等	2
医療安全を守るためのカンファレンス	臨地実習で受け持った様々な健康段階にある成人の医療安全対策を検討する	対象に起こりうる医療事故、安全を守るための看護実践の方法等	4
看護計画や看護実践の充実を図るための文献検索・技術練習	臨地実習で受け持った様々な健康段階にある成人の看護計画や看護実践を振り返り、ケアの方法を検討する	個別性を踏まえた看護計画の立案・修正、実践した看護のエビデンスの確認、実施した看護技術の熟練等	4